

事案名	阿波島（竹原市）の事案（広島県34-4）
分類	生産・保有 廃棄・遺棄 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Intelligence Report on Japanese Chemical Warfare Volume [ 1 ]</li> <li>・ 「化学戦弾薬及器材調査表」（作成主体、作成年月日は不明） [ 2 ]</li> <li>・ 「阿波島における旧軍毒ガスの埋没処理に係る調査結果」昭和51年 [ 3 ]</li> <li>・ 民間会社史 [ 4 ]</li> <li>・ 「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年10月27日 [ 5 ]</li> </ul>
資料内容概要	<p>戦時中、広島県竹原市の阿波島に、広島陸軍兵器補給廠忠海分廠阿波島出張所が設置され、東京第2陸軍造兵廠忠海製作所（現大久野島）で製造した毒ガス兵器のうち、通称「ちび」（シアン化水素）と「赤」（ジフェニルシアンアルシン）の2種類を保管していた。上記2種類の毒ガスは広島陸軍兵器補給廠忠海分廠へ送っていたが、その一部を阿波島へ分散保管していたものである。</p> <p><b>生産・保有情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終戦時に、広島陸軍兵器補給廠忠海分廠（阿波島）には、各種あか筒89,504本が保有されていた [ 1 ]。</li> <li>・ 忠海分廠（阿波島）には、99式大あか筒11,258本・1式大あか筒33,166本・98式小あか筒44,650本・98式中あか筒430本が保有されていた [ 2 ]。</li> </ul> <p><b>廃棄・遺棄情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元工員の証言として、占領軍が進駐する前までに「ちび弾」を処理するよう広島陸軍兵器補給廠忠海分廠から指示があり、昭和20年8月から10月に阿波島西海岸の砂浜でガソリンをかけて「ちび弾」を焼却したと記載されている [ 3 ]。</li> <li>・ 元工員の証言として、昭和20年9月または10月に、阿波島の退避壕（たこつぼ）数カ所に、あか筒4本入りの木製の枠箱50～60箱を埋設したと記載されている [ 3 ]。</li> <li>・ 元関係者の証言として、昭和21年1月または2月に、米軍人2人と巡査1名の立会いの下、阿波島東海岸の沖合いで干潮時に5ヶ所穴を掘り、そこにそれぞれ「あか筒」約20個を埋設したと記載されている [ 3 ]。</li> <li>・ 占領軍が進める毒物処理のはじめに、忠海兵器補給廠、大三島、阿波島、米光、切串、内海などに散在する全ての毒物を大久野島に集積した [ 4 ]。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・阿波島へ毒ガス弾等を埋設したとの元工員3名の証言を受けて、広島県が現地調査を行い試掘等を実施したが、毒ガス弾等は全く発見されず、正確な埋没箇所の確認に至らなかった〔3〕。</li></ul> <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・現在、阿波島は無人島で、井戸の利用はない。土地は、個人所有地で島への出入りは船による。定期船はなし。また、戦後、農地利用はあったが、以後、農地利用は休止された〔5〕。</li></ul>
--	--